

からくり展示館 からくり展示館

からくり展示ホールに展示されている座敷からくり人形は、ロボットの原点であり、何百年もの間人々を楽しませてきました。17世紀から19世紀にかけて作られ、ほぼ全体が木材で作られています。歯車、ぜんまい、棒、滑車の複雑なシステムにより、舞、逆立ち、面が変わる、ハンマーを振る、扇子を開くなどのリアルな動きが可能になります。

からくり人形にはいくつかの種類あります。大きなお祭り車山人形（車山からくり）は、1635年にさかのぼる犬山まつりに登場し、毎年4月の第1週末に開催されます。人形は、犬山城下町を巡行する3階建ての車山の上で、伝統的な神話や伝説の再現を行います。人形を動かすには、7〜8人の操り手が二層目で操作します。

座敷からくりは、身分の高い方が使用する高価なおもちゃでした。最も代表的なものは、お茶を一杯入れた後、前方に移動して頭を下げ、茶わんをとると止まり、茶わんをもどすと戻る人形でした。人形の仕組みは、クジラのヒゲでできた巻きばねによるものでした。

からくり展示館の運営者は、毎週土・日曜日・祝日にからくり人形の実演・解説も行っています。第9代のからくり人形師、玉屋庄兵衛は、週に2回、彼の職人技を披露します。